

国交省検討会

16年度にCIM指針

先導事業で優位性検証

国土交通省は26日、CIM制度検討会の第4回会合を開き、導入に向けたスケジュールを再構成した。2012年度に実施したモデル事業で得られた課題も踏まえ、15年度にかけて設計や施工などの各段階ごとにCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を活用する範囲や優位性を検証。各段

階をまたいでCIMを活用する。

再構成したスケジュールでは、各段階ごとに活用する範囲や優位性、効果などを検証する段階を「基礎的試行」、段階をまたいで活用する際の効果をj探る段階を「利活用試行」、ガイドライン作成や鮮度の導入事業の運用の段階を「適用試行導入」に分類。段階を追って検証を進め、CIMの適性を見極めていく。

基礎的試行の段階では、12年度に実施したモデル事業の結果や課題を踏まえながら、今後実施する試行業務や指定工事の中で検証する。工事では、契約図書としてCIMのモデルを活用する可能性を探るため、3Dモデルによる契約を実施してその効果や課題をj探る。業務では、3Dモデルからの数量算出が実施できるよう再検証し、数量算出要領の見直しにつなげるほか、3Dモデルにより効率化できる範囲も見極める。検証により、CIMを活用できる範囲の絞り込みも進める。

このほか、モデル事業で挙げられた課題として、計画段階などのプロジェクトの上流段階からの導入する体系の確立が指摘されたほか、各段階でデータを受け渡す際の所有権などの法的対応、CIMをj極える人材の育成・教育体系の確立などが挙げられており、今後検討していくこととした。また、現行の設計施工分離の原則がCIM導入の障壁にもなるとみて、設計施工一括発注方式の導入や積算基準の制定など入札契約方式のあり方も課題に挙げている。

利活用試行の段階では、各段階をまたいで共有できるモデルを活用し、その効果や特性をj絞り込む。また、維持管理段階への導入を目的としたプロジェクトも選定し、試行導入に入る考え。施工を終えた直後の構造物や、既に維持管理を進めているものを選ぶ見込みだ。

適用試行導入の段階で策定するガイドラインは、各段階での検討結果を踏まえ、CIMに適性のある事業を明確にするほか、建設プロセス一連の中で導入できる範囲やCIMによる契約方法などをまとめ、発注者がCIMを導入する際の指針としていく。先導的導入事業では、各段階で共有できるモデルを活用して建設プロセス一連の効率化をj探るためのプロジェクトを選び、運用に入りたい考えだ。

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊 | 5. 日勢 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 | 6. 日刊 |
| 10. 中部 | 11. 建通 | 12. 日刊 | 7. 工業 |
| ⑬建設 | 14. 信濃 | 15. 日本 | 8. 海 |
| 16. 建設 | | | |

平成25年11月28日(朝)・夕PI